



第89号

発行日
2008年10月29日

発行所
福井市春山2丁目7番15号
社団法人福井市シルバー人材センター

編集委員会
電話 0776(27)0701
FAX 0776(27)0779

— 躍動のスポーツまつりで開幕 —
元気で勤労 感謝の奉仕
普及啓発促進月間で多くの成果



秋晴れの中行われた
ミニミニスポーツまつり
(9月11日)



各色対抗の玉入れ

カメラルポ

手織り工房「おりひめ」



手織の作業風景

今回は手織り工房「おりひめ」を訪ねました。代表の内田紀子さんにいろいろとお話を伺いました。「この工房ができたのは平成18年の3月で、ちょうど2年6ヶ月たちました。きっかけは、資源のリサイクルが社会的課題となっている今日、家庭で使われなくなって、タンスに眠っている古い衣服を何とか再利用できないか…」との思いが動機とのことでした。

会員は現在12名で、毎週火・木・土に活動しています。ここでは2種類の手織り作品を製作しています。一つは「さをり織り」といって、糸を使って織っていくもの。二つめは「さき織り」といって、古い布を裂いて織るもので、リサイクル向きの手法です。これらをまとめて一般的に「さをり織り」と呼んでいますが、それは「織る人個々の感性の差を織る」という理由からだそうです。つまり作品には、織る人の思いや感性が自由に表現されるため、同じ物は一つも無いのが大きな特徴とのことでした。

最近、「さをり織り」をやりたい人が増えてきたことから、その楽しさを伝えるために7月から月4回、土曜日に体験教室を開催しており、工房は大変賑やかになるとのことでした。

作っている作品は、ペンケースやメガネケースなどの小物、ベストやバッグなどの大きいものなどで、製作に要する時間は、ベストで1～2ヶ月だそうです。

作品は福井駅近くの「エコライフプラザ（旧三上ビル）」の2階にある「工房 おりひめ」で販売しています。気になる値段は以下の通りです。

◎ ペンケース	650円
◎ メガネケース	500円
◎ バッグ【さをり織り】	3,000円から
【さき織り】	3,500円から
◎ ベスト【さをり織り】	5,000円から
【さき織り】	16,000円から

意外に安いのに驚きました。最近では固定客も増えてきており、内田さんは「会員の皆様もぜひ一度訪ねてきて欲しい」と話していました。

(取材:池尾清隆)



作品のいろいろ



今日も元気な80代



高齢会員の紹介



今後も特別正会員として

南部第1地区
足羽3班 佐藤トシ工 (85歳)

大正12年(1923年)8月25日生

シルバー人材センターに入会した頃は、年賀ハガキの販売が始まりますと、必ずセンターに「今年も元気でおりますので宜しくお願いいたします。」と電話をして、宛名書きの仕事の連絡を受けると、せっせとセンターに通った頃が懐かしく思い出されます。

センターへの入会と時を同じくして、勤労婦人センターの書道部に入会いたしました。安易な気持ちで入会しましたが、丁寧なご指導をくださる講師の先生に心惹かれ、学習への意欲が湧いていきました。70歳代の頃からは、積極的に展覧会に出品するようになりました。しかし書道の奥の深さを知るようになり、スランプに陥り集中で

きずに悩んでいる時、友に「リラックス、リラックス」と励まされスランプから抜け出し、現在まで続けることができました。

2006年には、「ねんりんピック静岡2006」が静岡市で開催され、その美術展で「銅賞」をいただきました。第22回「シルバー福井展」では、はからずも「厚生労働大臣賞」をいただきました。様々なスランプに陥りながら、友の励ましにより乗り越え続けてきた道のりを思うと、いただいた賞の嬉しさと賞の重さに身の引き締まる思いです。

これからも友を大切に、「特別正会員」の一員として健康で暮らせる間は、元気な80代「生涯学習」という思いで続けていきたいと思っています。



シルバー福井展会場前にて



園芸と『旅の会』が生きがい

西部地区
湊6班 大橋一良 (81歳)

昭和2年(1927年)年6月28日生

私は、公務員として38年間勤務して定年退職後、公民館で6年間勤めました。その後、平成6年にシルバー人材センターに入会し、すぐに勤労婦人センターの管理人として週3回、講座生の入会受付や館内巡視の業務をしました。そこでは本当に多くの人々との出会いがありました。

そこをやめてからは選挙公報の配布に携わっています。毎回350戸の配布は約4時間程度かかります。配布漏れ防止のために、配布地区の住宅地区に一軒一軒チェックして確認します。

もともと園芸に興味があり、市園芸センターの園芸講座を受講し、土作りや肥料やり、水やりな

どについて習い、現在は各種の花作りを楽しんでいます。

会員互助会の同好会「旅の会」には、平成13年10月の発足と同時に入会しました。現在の会員数は20数名程度で、年間一泊旅行を2回、日帰り旅行を1回行って、会員同士とても親しくなり楽しい会です。

お陰様で健康ですので、趣味や互助会活動などを楽しんでいます。これからも元気で長生きできるように願っています。



旅の会で行った沖縄でのスナップ

10月は普及啓発促進月間

シルバークフェスタ

10月は、(社)全国シルバー人材センター事業協会が定めた普及啓発促進月間です。当センターでは、毎年この時期にあわせてシルバーのPR活動を行っています。

10月4日には「シルバークフェスタ2008イン越前市(県連合主催)」に福井市シルバーから約200名が参加をしました。また、10月18日の「シルバーの日」には、恒例となった清掃奉仕を市内10ヶ所で開催しました。



巧妙な話術で笑いを誘う
太鼓持あらいさん



広い体育館を埋め尽くした参加者



当センターの焼き鳥売場にはいつも長蛇の列



さをり織りの体験コーナーでは男性も挑戦



アトラクションの最後を飾る
当センターの民謡サークル「あじさい」

清掃奉仕

【ひだまりの家大宮】



ひだまりの家大宮の
窓ガラス拭き



幾久公園では
男性会員が大活躍

【西部緑道】



西部緑道には
約60名が参加



水路の落ち葉もきれいに掃除

【ふくい健康の森】



清水地区は180名が参加

健康の森の草刈りは大変



企画提案型事業が順調！

— 清水地区 —

資源循環型農業推進事業

この事業は、清水地区の「マイファーム清水」を中心に行っています。

廃棄物の減量化と資源化の推進、有機・低農薬の拡大を目的とした事業です。市民菜園等で発生する野菜の残材を堆肥化して、できた堆肥や畑用のボカシを販売しています。また、同時に堆肥づくりの講習会や有機野菜作り講習会、資源循環型農業指導教室を実施しています。



できたボカシの袋詰め作業



有機野菜作りの講習会

地産地消に基づく農産物加工販売事業

JA越前丹生が経営する地元野菜の直販所「丹生膳野菜」の横に建設している加工場(食堂)を、当センターが経営します。場所は、清水地区の「PLANT-3」と「丹生膳野菜」の間で、60席を有する本格的な食堂です。シルバーならではの伝承料理を中心に、地元食材の消費拡大を目指します。



シルバー会員が作った料理の試食会



加工場施設の完成予想図

会員のひろば

思い出のアルバム



私のボランティア人生

中央地区
宝永3班 竹内幸子

頭の働きも鈍り若い人達とする仕事もはかどらず、仕事をやめたら何をしようかと迷っていた時、ある路上で聴覚障害者と出会いました。

何もかもが通じないもどかしさを思い出し、仕事はできなくともボランティアは自由だと選んだ手話。サークルに入り良い先輩ややさしい聴者の手ほどきを受け、数年後には市の奉仕員、県の通訳者の免許をもらいました。

ボランティアをはじめたものの失敗の連続で、落ち込んだ時期もありましたが、時間と日々の助けで話や気持ちが通じ合うことができ、返事も笑顔で帰ってきた時の感動、胸を打たれた日のこと

は今も忘れられません。物の考え方や人の接し方なども覚えることができました。

今は手話を通じて地域の子どもたちと交流しています。5、6年前からは、人生最後の勉強と韓国語を習い始めました。今では四苦八苦しながらもホームステイや食事会のボランティアも始めました。これも、今に良い思い出になればと願っています。



平成17年 自宅で子ども達に手話を教える



私が出会った太極拳

中央地区
松本3班 古田裕哉

中国の街の公園内で、高齢者の人達が緩やかでゆったりとした動作で行っている太極拳を、テレビで見たのが初めてでした。

たまたまシルバー人材センターで太極拳のサークルがあると知って、早速入会しました。このサークルは女性が多く男性は私だけで、友人達に「黒一点」と冷やかされながら、月3回の練習に参加しています。県シルバー連合主催のフェスタでは、大きなステージで10数名の仲間と、にわか仕込みで一生涯懸命演舞を行いました。

太極拳から得られる健康上の効用について簡単に説明いたしますと、

1. 下半身の筋肉の強化
歩行時、特に上り下りの負荷の足腰強化
2. 脳の活性化
脳を使うことにより、大脳皮質の血行良化

による活性化

3. 内臓の働きが活発化
筋肉内の赤い筋肉を強化することによる内臓の働きの強化
4. 身体の柔軟性の向上
太極拳は全身運動なので、身体に柔軟性が出てきます。柔軟性は「長生きのパロメーター」と言われています。

このような効用が期待される太極拳を私はこれからも続け、素晴らしい仲間と交流の輪を広げ、健康で楽しく生きがいのある人生を送りたいと思っております。

「さあ、シャル ウィ 太極拳！」



平成18年 フェニックスプラザでの発表を終えて



日本語を教える 福島 宏さん



(東部地区 旭3班)

福島さんは外国人に日本語を教える仕事に携わっている。この「県国際交流会日本語指導ボランティア」は約1年間の養成講座を受講・修了して初めて資格を得る事が出来る。日本語学習の手伝いと地域に住む人達との文化交流も目的。相手はあらゆる国からあらゆる目的で来日。20代の若者が多く、今の受け持ちは中国人だ。外国人青年達は実習生・研究生として、あるいは会社で仕事を持ち、携帯電話や電子辞典を離さず、勤勉で素直、謙虚で美しい心の持ち主との事である。

県国際交流会館のロビーで一人の男性が待っていると福島さんが現れた。学習の場所は大概国際交流会館

が多いが、いつも席があいているわけではない。早い者勝ちで、空いていない場合は喫茶店等を利用しなければならない。教科書に基づいて進行し一人の時もあれば数人の時もあるが、予定の2時間はたちまち過ぎてしまうと言う。



あわらでのお別れパーティの様子

受講生に福島さんの印象を尋ねると、「ほがらかで知識人」と評判は上々だ。通訳の必要性はないが、とっさの日本語の言葉を例としてあげなければならなかったり、国際化の一端を担う仕事として責任がある中に、楽しみもあるとお見受けした。俳句、音楽、テニス等多趣味である福島さんの瞳は、ほころんで見えた。

(取材：島津紀代子)

新しい仲間です

(公民館単位)
(敬称略)

(平成20年7月～9月に入会された方々)

- 宝永 牧政幸 中道富子 吉田好木久
- 順化 松田加代子
- 春山 高木映子 高瀬芳啓 小牧美代
- 松本 川上八重子 石川節子 吉川菊江 山野誠一
- 旭 川上多計恵 高島正治 田治寛
- 日出 矢崎寿 梯喜一 野村捨一
- 円山 吉田ヒサ子 瀧野紀子 大滝尚子
- 和田 鈴木七丸 松葉きよ子 山口豊子
- 岡保 三國邦雄
- 東藤島 服部博之 藤井光子
- 湊 安野義昭 安野とみこ 野路一郎 國末政男
- 日新 高村勝明 柳澤俊雄
- 木田 杉本文夫 山崎松夫
- 足羽 林弘 幅口よき
- 川南柳蔵 田中美恵子

- 社南 永田隆子 品川高一
 - 社西 長谷村喜美子
 - 社北 石丸實夫 八木陽子
 - 清明 川口英雄
 - 東安居 三上照雄
 - 中藤島 内田光雄 野村茂利正 前野栄
 - 河合 坂下静子
 - 森田 畑清江
 - 明新 熊谷康心 安沢数子 中村勝則
 - 東郷 中江義弘 清水智代子
 - 酒生 荒川武夫
 - 麻生津 高橋保雄 橘千恵子 笠島喜美子
 - 清水西 小谷正
 - 清水東 勝木勝
 - 清水南 北榮治 三上幸江
 - 清水北 木村正義
 - 越廼 竹田恵津子 浜谷幸子
- (以上66名)

編集後記

先日、市内全戸に配布された当センターのパンフレットによると、他県には見られないほどの多くの事業数で、改めて規模の大きさに感動し、働ける喜びと絆を感じます。

本県の高齢者有業率も40%と発表され、10人に1人が75歳以上(2008年高齢社会白書)という高齢化社会に突入。そこで心配されるのが認知症。先日放映された予防法として、▶有酸素運動 ▶社会的接触 ▶成人病予防とあった。ウォーキング、話し相手を持つ、笑いの勧め、音読、ブログ作成、腹八分等、ひと言で言えば、こまめに動くことと言えます。(島津紀代子)

● 編集委員 ●

小谷克朗、田嶋丈治、石森英次、池尾清隆、松村眞、土屋黎子、島津紀代子

本所・支所・連絡所ごとの会員数(9月30日現在)

	男	女	計
福井本所	1,140名	731名	1,871名
清水支所	148名	118名	266名
美山支所	69名	58名	127名
越廼連絡所	19名	27名	46名
合計	1,376名	934名	2,310名

会員のおくやみ (平成20年7月～20年10月)

- 豊地区 持田昌幸さん
- 社北地区 山田泰弘さん
- 中藤島地区 白崎國光さん
- 清水南地区 森下一信さん